

予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算

支出科目 款：農林水産業 項：畜産業費 目：家畜保健衛生費

事業名 豚熱・アフリカ豚熱対策調査・研究事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 家畜防疫対策課 防疫推進係 電話番号：058-272-1111(内4155)

E-mail：c11449@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 7,170 千円 (前年度予算額： 7,786 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	7,786	0	0	0	0	0	0	0	7,786
要求額	7,170	0	0	0	0	0	0	0	7,170
決定額	7,170	0	0	0	0	0	0	0	7,170

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

・豚熱はワクチン接種が開始された以降、県内での発生は確認されていないが、全国では、ワクチン接種済農場での豚熱発生が相次いでいる。また、野生いのししの感染は全国に拡大しており、県内でも豚熱に感染したいのししが継続的に確認されている。

・本県では、野生いのししにおける豚熱ウイルスの再拡大防止、効果的かつ効率的な対策の実施が課題となっており、国内の先行事例が少ないなか、豚熱対策に資する対策の研究や科学的知見の蓄積が必要である。

(2) 事業内容

豚熱・アフリカ豚熱対策のため、野生いのししにおける豚熱の状況を把握するための浸潤状況の確認や科学的分析を基にした農場を守る対策や野生いのしし対策に関する調査・研究を委託。

また、野生いのししの捕獲データを正確に記録するため、捕獲位置や個体情報をスマートフォンから登録するアプリを利用し、捕獲者の負担軽減とデータ管理業務の効率化を図るため、維持管理等を委託。

(3) 県負担・補助率の考え方

県：10／10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	84	打ち合わせ等業務旅費
需用費	120	消耗品、コピー代等
役務費	48	通信運搬費
委託料	4,611	浸潤状況調査、スマホアプリ維持管理等
使用料	2,307	アプリ（いのししまップぎふ）運用サーバ
合計	7,170	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略（2023～2027）
 - 2 健やかで安らかな地域づくり
 - (2) 安らかに暮らせる地域
 - ⑥ 災害と危機事案に強い岐阜県づくり
- ・「ぎふ農業活性化基本計画」（R8～12）（仮称・令和8年3月策定予定）
 - 基本方針4 安心できる農畜水産業と農村の環境整備
 - 4 生産を脅かすリスクへの対応
 - ① 家畜伝染病に対応できる畜産産地づくり

(2) 事業主体及びその妥当性

県が実施している豚熱対策を推進するための事業であり、県による実施が妥当である。

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

野生いのししにおける豚熱の浸潤状況の詳細な把握、野生いのしし対策手法の研究を実施し、農場の対策や野生いのしし対策に反映する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

豚熱対策の基礎となる情報の収集、対策手法の調査・研究が目的であり、具体的な指標の設定は困難。

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	・浸潤状況の推移を県内野生いのししの状況把握に活用するとともに、豚熱終息に向けた想定シナリオの作成と対策を検討。 ・スマホアプリでは、ユーザーアンケートによる機能改善を実施。
令和5年度	・浸潤状況の推移を県内野生いのししの状況把握に活用するとともに、豚熱終息に向けた想定シナリオの作成と対策を検討。 ・スマホアプリでは、ユーザーアンケートによる機能改善を実施。
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和6年度	・浸潤状況の推移を県内野生いのししの状況把握に活用。 ・スマホアプリでは、ユーザーアンケートによる機能改善を実施。
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 2	豚熱の終息に向けては、長い期間、野生いのしし対策が必須であり、専門家等の助言等を得た、実態の把握と研究が必要。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	データの可視化や分析の手法なども含めアドバイスをもらうとともに、豚熱対策(捕獲や経口ワクチン散布)の重点化や感染いのしし確認時の対策に反映。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	浸潤状況調査に加え、直面する課題等の分析も実施。適宜、結果をもらうなど効率的に対策に反映。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 ・本県では、他地域からのウイルスの再移入や、これに伴う再拡大を防止することが必要であり、国内の先行事例が少ない中で、県の状況に応じた野生いのしし対策を推進する必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ・豚熱の浸潤状況やこれまでの経過の実態を把握し、経年の変化等を確認する必要やその時々直面する課題への対応、より効果的な対策手法の検討のため、調査を継続する必要がある。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課 組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】
--	------------------------------